

2026年4月
スタート

関東学院大学 国際文化学部
多文化協働コース



KGU 社会連携
Social Collaborative or Research & Education

社会とつながる、世界とつながる

CO-Project



KGU_TABUNKAKYODO

Faculty

● **相原 健志** Yasushi Aihara

ネオリベラリズム下でのサッカーとキャリア/学習・情動の社会性と身体論/文化人類学の学説研究

● **伊藤 健人** Taketo Ito

やさしい日本語/日本語教育文法/認知言語学/ことば・言語行動・コミュニケーション・文化の関わり

● **呉 世蓮** SaeYeon Oh

多文化教育/社会教育・生涯学習/平生教育/地域社会/日韓比較教育

● **柏崎 梢** Kozue Kashiwazaki

コミュニティ開発/アジア途上国の都市計画/まちづくり

● **児玉 晃二** Koji Kodama

文化批評理論/アダプテーション論/翻訳/オンライン国際交流

● **四條 真也** Masaya Shijo

ハワイ研究/沖縄、奄美研究/エスニック・スタディーズ、文化としての筋トレ

● **高井 啓介** Keisuke Takai

宗教と社会貢献/多文化共生社会と宗教/推し文化の宗教性/聖地巡礼とツーリズム

● **デビッド ヒース** David Heath

翻訳/翻訳理論/異文化コミュニケーション

● **ヤン ジョンヨン** Jungyun Yang

日本語教員養成課程/多文化共生と言語支援/地域日本語教育

● **吉田 広毅** Hiroki Yoshida

学習動機付け/オンライン交流学習/多文化コミュニケーション

Contents

- **若者ことば × 国際交流** _ page3
 - **押し活Oshikatsu × 国際交流** _ page4
 - **やさしい英語 × ツーリズム** _ page5
 - **プロスポーツのキャリア × 共生社会** _ page6
- **カンボジア × 開発支援** _ page7
 - **韓国 × 社会教育** _ page8
 - **ハワイ × 教育支援** _ page9
- **やさしい日本語 × 応用言語学** _ page10
 - **多文化共生 × 日本語教育** _ page11
 - **異文化理解 × 教育** _ page12
 - **宗教 × 食 × 留学生支援** _ page13

若者ことば×国際交流

CO-Pro



「若者ことば」と文化

ことばには、「若者」のように特定の年齢層の人しか使わないものもあれば、同じ若者でも、「大学生」のように特定の社会階層の人しか使わないものもあります。そうしたことばは、国・地域の文化や習慣を反映しています。例えば、日本の大学生は「空きコマ」ができないように時間割を組みますが、一授業が240分のタイでは、そもそも「空きコマ」ができませんので、「空きコマ」ということばもありません。こうした文化や価値観の違いによる「若者ことば」の違いを探っています。



オンライン×オフラインでの交流

ことばを学び、人間関係を深めようとするとき、留学生などと対面で直接かかわることは重要です。しかし、直接会うのは簡単ではありませんし、心理的なハードルも高いでしょう。多文化協働コースでは、オンラインと対面、双方の良さを生かしながら国際交流を進めています。

主な連携先

- ・タイ・シーパトゥム大学
- ・インドネシア・ダルマプルサダ大学
- ・ホーチミン人文社会科学大学等

対象

- ・大学生、高校生

担当教員

- ・吉田・伊藤





CO-Proと「推し活」

多様な文化的背景を持つ人たちとの共生をうたう国際文化学部にとって、国際交流はとても大切な事柄。そして「推し活」はいまや日本だけでなく世界に広がる文化的営み。コースの学生と、関東学院大学で学ぶ留学生・交換留学生、アジアやアメリカの海外協定校で日本語を学ぶ学生と、オンライン・オフラインで「推し活」に関係する様々なイベントを共に行いながら、各国間で何が同じで何が違うのかを知るなど、異文化交流の醍醐味を楽しく体験していくプロジェクトです。



「推し活」とは？

「推し活」とは、自分の「推し」（特に応援したい人物やキャラクター）に対して愛情や支持を表現しながら、その存在を通して自己の感情や生活を豊かにする活動のことです。アイドル、アニメ、VTuberなどのジャンルを問わず、SNSでの発信、グッズ収集、イベント参加など多様な形で展開され、現代の信仰や共同性の新たなあり方とも結びついています。



主な対象

- ・多文化協働コースの学生
- ・留学生・交換留学生
- ・海外協定校で日本語を学ぶ学生

関係する地域

- ・大学構内・横浜・鎌倉

担当教員

- ・高井

CO-Pro

推し活 Oshikatsu × 国際交流

国際交流の入り口

今、日本を海外から旅行者が数多く音連れており、その数はかつてないスピードで増加しています。外国からの日本旅行を「インバウンド」と呼びますが、その市場は年々規模を拡大しています。

我々が訪日客と接する機会も当然ながら増えており、繁華街や駅などで目にするに留まらず、道案内や質問などの交流が発生することも少なくありません。

日本を訪れる様々な人々がどのような関心を持っているのか。どこを訪れて、何をしたいのか、その理由は何なのか。実際に聞いて、調べてみて初めてわかることがたくさんあります。

また、実際に一緒に現地を訪れることで、身近な場所の新たな魅力に気づかされることもあります。ツアーづくりは交流の楽しさだけでなく、意外に奥の深い学びをもたらしてくれます。



「やさしい英語」

授業で実際にボランティアガイドの研修を行ったり、アメリカやインドネシアから日本を来た大学生を対象にツアーを実施したりしてきました。

日本語の理解力が異なる海外の学生を案内する際には、やはり英語が役に立ちます。リング・フランカ（国際共通語）としての英語の力を痛感する部分です。

どのような単語や表現を用いて、どのような発音やスピードで話すと伝わりやすいのか。誰でも使えて、誰でも理解ができる「やさしい英語」を目指すことが、ひとつのポイントとなってきます。

ことばの面でも身近なところから世界を広げられるのが、このプロジェクトの大きな特徴です。



主な対象

- ・多文化協働コースの学生
- ・留学生・交換留学生
- ・インバウンド旅行者

関連する地域

- ・大学構内
- ・横浜（金沢八景・関内など）
- ・東京（渋谷・品川など）

担当教員

- ・児玉・ヒース



CO-Pro

やさしい英語×ツーリズム

華やかさの裏側？

おそらく多くの人が、プロスポーツ界にたいして華やかなイメージをもつでしょう。高級車に乗り、ブランド品に身を包む姿は、まさに「セレブ」そのものです。

しかし、その一握りの人を除けば大多数が、見通しの立たない将来のなかで不安定な生活を立てなければいけない状況にあります。契約が2年でいつクビを切られるかわからない、次に契約したクラブが地方や海外で急に引っ越さなくては行けない、単身赴任しなくては行けない、安月給で生活がギリギリ、スポーツを離れて働こうにも学やスキルがない……

プロスポーツ界は、**夢と希望と華やかなライフスタイルにあふれた見ための裏**で、人々を激しい競争にさらしつつける、グローバル社会の縮図なのです。



▲世界中の研究者が、「愛と現実」「理想と現実」のはざまに揺れる現状を問題視しています。とくにイギリスでは、プロになれなかった若者に他の仕事がないことが、社会問題化しています。

CO-Pro

プロスポーツの キャリア×共生社会



CO-Proとスポーツ

このCo-Proでは、実際にプロスポーツの世界に生きる人びとに聞き取り調査を実施して、彼らがいかなるキャリア・人生を送ってきたのか、どういう状況に現在置かれているのか、そしてどういった未来を描いているのか（はたまた描けないのか、それはなぜか）を調査し、その背後にいかなる社会文化的な要因が隠れているかを調査します。

こうした調査は、具体的な人々の具体的な生き方、具体的な悩みを知るだけでなく、彼らが生きる国・地域の**具体的な政治社会的な状況というより広い文脈を組み合わせる**ことになります。

プロスポーツと現代の政治社会の関係という事例をつうじて、多様な生き方が許容され、共存する社会、つまり共生社会の未来を、ぜひ一緒に考えましょう。



主な連携先

- ・プロスポーツクラブ関係者とくに、日本（Jリーグ）、スペイン、ポルトガルのプロサッカーまたはセミプロの監督・コーチ・選手

現地研修

- ・5日間（海外の場合、夏休み）
- ・日帰り～3日（国内の場合、夏休み）
- ※対象者の都合や、その時点での勤務国・地域・オフシーズン期間により変更になります。

担当教員

- ・相原

カンボジア × 開発支援

CO-Pro



カンボジアの今

海外直接投資を受け、急速な開発が進むカンボジアの首都プノンペン。44年前の内戦の影響も色濃く残り、基本的インフラや教育が行き届かない中、国内の格差が拡大しています。持続可能な開発はまたしても叶わないのか、国際社会から注目が集まっています。当プロジェクトでは日本で働くために学ぶ日本語講習センターで、日本語教育の支援や文化交流を通し、相互理解を深めるべく支援活動を続けています。



ソーラーランタン支援プロジェクト

ランドポート株式会社と連携し、ソーラーランタンCARRY THE SUN®を学内外のイベントで販売し、売れた数だけカンボジアの電気が届かない集落の小学校に届けています。子どもたちを笑顔にしたい、彼らの将来を明るく照らしたい、という想いをつないでいます。企画、交渉、宣伝、発信など、すべて学生主導で行うプロジェクトです。

主な連携先

- ・ BIG BI IMEX GROUP CO. LTD.
- ・ ランドポート株式会社
- ・ カンボジア王立大学日本語学部

現地研修

- ・ 約10日間（春休み期間）

担当教員

- ・ 柏崎





韓国社会の今

経済発展とともに外国人労働者や国際結婚が増え、韓国はこれから本格的な多民族・多文化社会を迎えようとしています。こうした変化に対応するために、学校教育や地域の社会教育の現場では、多文化共生をテーマにしたプログラムが導入されはじめています。

韓国の伝統文化を再評価しつつ、新たに共に暮らす人々の文化を学び合うことで、多文化社会にふさわしい市民意識と共生の価値観が育まれてつつあります。

CO-Proと韓国

韓国では、学校の授業だけではなく「平生教育」として地域とつながりながら、多文化共生を学べる場があります。

CO-Proでは、移住労働者や多文化家庭を支える団体と一緒に、地域の人たちと対話を重ねながら、日韓それぞれの歴史や文化を肌で感じるプログラムを実施。教室を飛び出して多様なバックグラウンドを持つ仲間と協力し、実践を通して多民族社会で生きるチカラを育てます。新しい発見と気づきがいっぱいのCO-Proへ、ぜひ参加してみませんか？

主な連携先

- ・ソウル、光州広域市、京畿道

現地研修

- ・5日間（春休み期間）

担当教員

- ・呉

CO-Pro

韓国 × 社会教育

CO-Pro

ハワイ × 教育支援



ハワイ人の今

西洋文化の影響で、一時は衰退してしまったハワイの伝統文化でしたが、1980年代に復活の兆しを見せ始めます。

なかでも、フラはハワイ文化の象徴であり伝統文化復活を牽引してきました。フラをとおして、ハワイ語やハワイの歴史、自然とのかわり方や人としての生き方を学ぶことで、ハワイ人の文化とアイデンティティが再生しつつあります。



CO-Proとハワイ

現在ハワイ人社会では子どもたちが伝統文化を学ぶことで、ハワイをより持続可能な社会にする取り組みがひろがっています。しかし、ハワイ人家庭の中には教育に十分な金額をかけられない家庭も多くあります。

CO-Proではコーヒーの産地カウ地区と連携し、子どもたちが伝統文化そして世界を学ぶ機会をサポートし、ハワイの将来について現地の人々と一緒に考えます。



主な連携先

- ・ハワイ州ハワイ島カウ地区
- ・ Hālau Hula O Leionalani
(カウ地区で教育活動を行う NPO)
- ・ Hawai'i Pacific University

現地研修

- ・ 7日間 (11月初め学祭休講期間)

担当教員

- ・ 四條

CO-Pro

やさしい日本語×応用言語学

CO-Proと応用言語学

「なぜ“サクサク”はカタカナで、“もっちり”はひらがなで書くのか？ これは、お菓子のパッケージの表記に疑問を持った学生グループの研究テーマです。これらを調査・分析し、日本人にも外国人にわかりやすく発信していきます。CO-Project（伊藤）では、日本語コミュニケーション、やさしい日本語、語用論、談話分析、社会言語学、対照言語学、認知言語学、ことばと文化、日本語教育などを幅広い領域を含む「応用言語学」の枠組みから多文化共生社会の言語面の課題に取り組んでいます。

サクサク パリパリ カリカリ コロコロ
もっちり ふんわり とろ～り しっとり



CO-Proと「やさしい日本語」

CO-Project（伊藤）では、学生からの疑問を基に研究テーマを決めていきます。例えば、「わかりやすい料理レシピの特徴」、「ことばのユニバーサルデザインとは」、「新語・流行語からみる若者ことば」、「曖昧表現のスケール化」、「日本語の言いさし表現の特徴」などなど、毎年たくさんの興味深いテーマが生まれます。日本語を出発点として、ことば・文化・コミュニケーションの関わりについて、学生と教員がともに研究しています。CO-Projectでは、まず、複雑な事柄をわかりやすく伝える「やさしい日本語」のトレーニングから始めます。そして、各グループの研究へと進み、その成果を基に、やさしい日本語、情報伝達、日本語教育への実践・応用を目指します。



主な対象

- ・日本語教員養成課程を履修する学生

科目名

- ・「やさしい日本語」表現法

担当教員

- ・伊藤

CO-Pro

多文化共生 × 日本語教育

多文化共生と日本語教育は、密接な関係にあります。簡単に言うと、多文化共生社会を築く上で、日本語教育は非常に重要な役割を果たす土台となるものです。

「多文化共生」とは：

異なる国籍、民族、文化を持つ人々が、互いの文化を尊重し、理解し合いながら、地域社会の一員として共に生きる社会を目指す考えです。単に外国人が日本に住むだけでなく、彼らが地域社会で活躍し、日本人と共に豊かな社会を築いていくことを意味します。

「日本語教育」とは：

日本語を母語としない人々に対して、日本語を教えることです。単に文法や語彙を教えるだけでなく、日本の文化や社会習慣なども含めて日本での生活や社会参加に必要なコミュニケーション能力を育成することを目指します。



多文化共生 × 日本語教育

コミュニケーションの基盤提供

多文化共生社会では、異なる背景を持つ人々が円滑にコミュニケーションをとることが不可欠です。日本語教育は、外国人が日本語を習得することで、日本人や他の外国籍住民との意思疎通を可能にし、孤立を防ぎます。日本語が理解できなければ、行政サービス、医療、教育、仕事など、生活のあらゆる面で困難が生じ、社会参加が非常に難しくなります。

社会参加の促進

日本語能力は、就職、地域活動への参加、子どもの学校生活への関与など外国人が日本社会の一員として主体的に活動するための必須条件です。日本語教育は、単なる言葉の習得だけでなく、日本の社会システムや文化への理解を深める機会も提供し、社会参加を促進します。

主な対象

- ・日本語教育教員養成課程を履修する学生
- ・全コースの学生

関連する地域

- ・横浜市（金沢区など）
- ・生活者としての外国人が暮らす全ての地域

担当教員

- ・ヤン

異文化理解 × 教育

CO-Pro



異なる文化、共通する文化

電車やバスで見かける優先席。これは、特定の属性の乗客を優先する座席のことをいいますね。では、優先される属性は万国共通なのでしょうか。タイでは、日本とは少し違う人たちが優先されます（どのような人が優先されるのか、答えは左の画像の中に）。

災害大国日本は、防災教育に力を入れています。実はこの「防災（Bosai）」ということばと考え方は世界に広がっています。インドネシアの津波や地震の歌があったり、アメリカには火事の際の合言葉があります。

このように、文化の異なるところと共通するところを学ぶ、他の文化を知り、他の文化を尊重するための第一歩です。

BOSAI is spreading to many countries!



異文化に対する気づきを生む教材・学習づくり

皆さんは、集合時間の何分前に集合しますか。恐らくは、5分、10分前に集まる人が多いのではないかと思います。一方、集合時間ピッタリにくる文化圏の人たちもいれば、30分後に悪びれずに来る文化圏の人たちもいます。それでは、日本人は特別に礼儀正しく、時間に正確なのでしょうか。なぜ、特定の文化圏の人々は、30分遅れてくるのでしょうか。こうした異文化に対する疑問や気づきを生む異文化理解教材や学習をつくっています。

主な連携先

- ・ 横浜市内中・高等学校
- ・ 横須賀市内中・高等学校
- ・ NPO法人

科目名

- ・ 「社会教育経営論」

担当教員

- ・ 吉田



宗教×食×留学生支援



宗教と食文化

宗教は「信仰する」ことだけでなく、「生きること」でもあります。たとえば世界最大のイスラム教国のインドネシアでは、食文化にもイスラム教の教えが深く根付いています。

「ハラール（許されたもの）」は、宗教的に認められた食材や調理法を指し、豚肉やアルコールを避けるほか、動物の屠殺方法にも厳格な規定があります。ハラール食は、信仰と日常生活が交差する象徴であり、多文化共生社会における配慮の重要性を示しています。

CO-Proと宗教x食

インドネシアからの留学生・交換留学生在が「ハラール」を守って生活するために、ちょっとだけ困っているとしたら私たちには何ができるでしょう。ハラール・メニューを提供する地域のカフェや大学構内でランチを提供するハラールのキッチン・カーとも協力しながら、コースの学生たちが、留学生たちと共に考えてハラールのメニューやその提供方法を立案するプロジェクトです。ハラール以外にも宗教と食の問題はたくさんあります。

文化的背景が異なる者同士が助け合って、すぐ近くにいる友人が「生きること」が少しだけ楽になるようにすること、それが多文化協働コースの学びなのです。



主な連携先

- ・ハラバン・カフェ
- ・EAT UP MANIA（キッチンカー）
- ・3号館学食ローズ・ザクロ
- ・地域のハラール・カフェやショップ

地域

- ・横浜市南部・横須賀市・三浦市

担当教員

- ・高井



将来の就職先

- ホテル・観光・サービス業
- 運輸・航空業
- メディア・情報・広告業
- 流通・小売・飲食業
- 不動産・金融・証券・保険業
- 行政機関
- 地方自治体
- 教育機関
- 社会教育関連施設
- 日本語教育関連機関(登録日本語教員)
- 国際機関
- NPO/NGO
- 一般社団法人 など



2027 CO-Project

関東学院大学 国際文化学部
国際文化学科 多文化協働コース

